



大阪府インテリア設計士協会

〒541-0059 大阪市中央区博労町1-6-14
TEL. 06-6262-1488 FAX. 06-6262-1553

URL <http://jp-interior.or.jp/ois>
blog <http://oisblog.exblog.jp>
E-mail ois@jp-interior.or.jp

発行人：梅田
編集人：田原(第3事業部長)
スタッフ：石渡・今井・加茂・五代
瀬部・福田・山田
河野(第1事業部長)
事務局：岡崎・奥田



平成25年度総会で最後のあいさつをする宮後前会長



新年度を迎えるに際して 会長 梅田 澄徳

東日本大震災から2年が経ちましたが、一日も早い復興と、被災された方々が元の暮らしを取り戻せるよう、心からお祈り申し上げます。

OISは1955年に大阪室内設計技術家協会(OSG)として発足し、現・一般社団法人日本インテリア設計士協会(SJIT)の2年後の創立に貢献した中心的な存在で、半世紀以上の歴史ある協会です。

SJITならびにOISは、創立当時の先達たちが考案した「資格制度」を、時代の流れに沿った変革を加えながら今に継承

することにより、協会そのものの継続・存在につながっているといつても過言ではありません。

インテリア設計士資格検定試験の継続はもとより、より有意義な協会にすべく、今年度から組織の運営方法を少し変更しました。

過去、事業部ごとの動きであった運営方法を、第1事業部と第3事業部、第2事業部と第4事業部が合同して活動することにより、相互間の理解と協力が増し、よりスムーズかつ強力、無駄のない協会

運営ができるものと期待しております。とはいっても、会員みなさんの協力なくしてOISの繁栄はありません。若い会員の催事への参加、先輩の知識・技術の継承や、見学・講習・親睦を通じた会員仲間のコミュニケーション作りを進めてまいりますので、ご協力をお願いします。



梅田新会長

新役員名簿

会長	梅田 澄徳(前・副会長)
副会長	南野江以子(再任)
田原妙子(〃)	
河野洋二(前・常任理事)	
岡崎正明(新任)	
常任理事	今西隆次(再任)
仲田貴代史(前・理事)	
広畠直子(〃)	
会計理事	石渡由華(再任)
理 事	五代晋一(〃)
	山口一芽(〃)
	山田弘美(〃)
	瀬部明(〃)
	吉矢詳子(〃)
	朝日勝彦(〃)
	加茂多紀子(〃)
	園田寛明(〃)
	今井俊夫(〃)
	西脇利彦(〃)
	矢野友佳子(新任)
監 事	鷲岳夏希(〃)
	福田幸市(再任)
	千田俊治(前・常任理事)

梅田丸出帆！



OIS総会・大幅な人事異動に期待感

OISの平成25年度総会は4月26日、難波OCATの市立難波市民学習センター・セミナー室で行われ、24年度の事業報告・決算報告、25年度の事業計画案・予算案などを審議し、全て原案どおり可決した。

その中で、インテリア設計士資格検定試験の受験者数の落ち込みにより財政的に苦しい状況が続いている反面、青年部のDesigner's BarやMANA-BOZEに対する頑張りや、葉知利書の発行については一定の評価ができると報告された。

今年は役員改選の年で、理事会で方向づけられた改選案が提示され原案どおり決定した。その内容を見ると、会長、専務理事はじめ、3理事が退任という状況を受けての大規模な人事異動で、別表のとおりである。



事業計画案を読む岡崎専務理事と議長の梅田会長

12月1日のいちにち

**事遊展'12**

2012年の事遊展はコラムギャラリーで開催された。

久しぶりにテーマを決めて、「クリスマス」に関する作品を募集した効果で、開催時期にあった雰囲気を醸し出し、会場に一体感を与えることが出来たのではないだろうか。

例年どおりの「事」=仕事、「遊」=遊び・趣味の作品の他に「陶芸教室」、「スケッチの会」での作品も展示したが、まだまだ作品不足の感は否めないが、スケッチについてはヌード作品が出されるなど、新鮮な一面も見ることができた。 (記・事務局)

**初詣
新年会****東北の復興にご支援を**

仙台在住のOIS会員、佐藤です。

1月6日の日曜日に行われた新年会に久し振りに参加しました。新年のご祈祷がお初天神に変更になって今回は4年目ですが、震災のことなどで、初めてでした。大都会の中らしく、こじんまりとしていますが、とても親しみやすい神社でした。

懇親会では青年部会の人とベテランの人気が和氣あいあいとお酒をかわす姿や、事務局の

**はじめての篆刻**

「篆刻」という文字だけでも難しい印象がありました。初心者は私だけで、宮後会長から簡単な歴史や文字の決まりを教えて頂き、早速、篆刻台に石をセットし印刀を手にしました。彫る方向、彫る時の力の入れ方等ご指導頂きながら、まず白文で「封」を次に朱文で干支の「巳」を彫りました。使い込んだ感じを出すのに印刀で石の縁を叩いて欠けさせるのには驚きました。ガリガリと夢中になって彫ることで無心になれたのは良い経験でした。

見本を見せて下さる宮後会長の手元を見ていて、まずどんな字体がいいかを調べる必要や、印面の中に文字を配置すること、筆で墨及び朱を入れて逆字でデザインすることができ上がりの大きな部分を占めているのだと思いました。小さな印の中に何



故この字を彫るのかという想いが詰まっているのを感じずにおれませんでした。なんと今迄に7,000個もの印を彫られたそうです。

ところで、手を乗せるソフトボール大の球状に綿を被せたユニークな「うま」はオリジナルとのこと。さすが凝り性の宮後会長！とても素敵だなと思いました。

帰りに事遊展を見て、充実の午後を過ごさせていただき、ありがとうございました。

(記・川野 京子)

フレンチでおしゃれな忘年会

一年の掉尾を飾る「忘年会」は昨年12月1日、その日のOISの一連の催しである「事遊展」「篆刻教室」に続く締めくくりとして開催された。

催しを同じ日に集めたのは、時間をより有効に使っていただくため、それぞれの催しに多くの参加者を得るために、そういう目的達成のために、会場は事遊展などの会場から近いことが求められ、徒歩で移動できる“Pomme de Katayama”に決まった。同店は「お箸で食べるフレンチ」が謳い文句で、私がランチやディナーに時折利用している店、無理が利くのも会場決定の条件の一つであった。

作戦が功を奏したのか、若い会員の顔がいつもより多く、会場は定員オーバーの状況、予想以上の展開、嬉しい誤算であった。

料理は、手の込んだフレンチが立派な器で一人ひとりに配られ、飲み放題のワインも好評で、会場は熱気に満ち溢れた。

途中クイズが行われたが、誰もが100点を取れるという易しい問題だったため、その優劣を競うことなく、次にチューインガムが配られ、それに付けられた番号により、ささやかではあるが景品が授与された。

店のマダムの後日談として、「若い人たちも行儀が良かったですね」と聞き、自分のことのように嬉しい思いであった。

(記・奥田 忠彦)



や地盤改良工事、基礎補強は「添え基礎」や「ベタ基礎」工事の連續でした。

宮城県は津波による被害も大きいものでした。私は「いのちを守る森の防潮堤」というボランティアに参加しています。津波の引き水によって多くの生命や財産が海に流されました。この活動では、震災によって出た大量の瓦礫の有害物質や分解不能なものを取り除き、土砂を混ぜて、そこに深根性や直根性の広葉樹を植樹して防潮堤を作っています。

OISの皆さん！どうぞ東北のお酒を飲んでください。東北の食品を食べてください。東北の復興にご協力ををお願いいたします。

(記・佐藤 登美子)

青年部企画 Designers' Bar OIS

第15回Designer's Barが3月8日の金曜日、コラムデザインセンターで行われました。気づけば15回も開催させていただいていることに驚きです。始めた頃は何回目まで…という不安でしかなかったのですが、本当に支えられていることに感謝です。

ところで、15回目を迎えたこの日はいつも少し違っていました。それは、3月は桃の節句＆ホワイトデーにちなんだイベントだったからです。

女性の方限定でワンコインでの初めての開催！！運営側も、なんとか人を集めたいがための試行錯誤です。

また、女性が好きなもの、それはチョコ！（勝手なイメージでいません）チョコファウンテンで、いろんなフルーツにチョコからめて食べるというものです。これには女性だけではなく、男性にも大変喜ばれていきました。

また賛助会員のアサカ硝子産業株から新商品説明もしていただき、やはり、その時代時代に適合した製品を提供しているということを、説明を聞いて初めて知ることができました。

また途中、1チーム4人の人が同じ紙コップに入った水を飲み、そのうちの一人、酔を飲まされた人を当てるゲームを、豪華景品（？）をかけて行いました。このイベントで大活躍をされたのが、疋田顧問です。

当てられないようにするゲームなのですが、大げさに「うわ～すっぽい！」と大声をだして、周りからは「演技っぽいな～」など、不正解を思わせる行動だったのですが、なんと、本当に酔を飲んでいたのです。演技

酔を飲んだ人を当てるゲームの一幕



ではない演技に、みんなは驚かされ拍手が飛び交うほど。後で聞いてみると、大学時代は演劇部だったとか。演技で魅せる人がこの協会にもいました。

この日は本当に学ぶことがたくさんあった一日だったと思います。

（記・園田 寛明）

4月14日の日曜日、青年部主催による「いっぱいASO-BOZE！」で五月山ハイキングが実施されました。阪急・池田駅に10時半に集合し、先ず、機織裁縫の祖・呉服媛を祀る呉服（くれは）神社に参拝です。奥田事務局長差し入れの美味しい鯛焼きで腹ごしらえをし、万全でのスタートです！

「落語みゅーじあむ」に向かう道中は、「サカエマチ1・2番街」という商店街も通りましたが、宝塚沿線に住んでいたこともあり、以前はよく池



呉服神社



落語みゅーじあむ



吳春酒藏

いっぽい ASO-BOZE

目に縁さわやかな山裾の町

池田を歩く

田にも来ていたので、とても懐かしい気持になりました。

「落語みゅーじあむ」は、知る人ぞ知る落語のまち池田にできた上方落語の資料館です。館内には「池田」が出てくる落語「牛ほめ」「猪買い」を紹介する展示の他、上方落語のCDやDVDを視聴するコーナーなど盛りだくさんでした。

その後は、大阪を代表する日本酒の呉春酒蔵の外回りを見ながらよいよ五月山に登りました。

今年は桜の開花が早かったので、もう散ってしまったかと諦めしていましたが、遅咲きの綺麗な八重桜が私たちを迎えてくれました。

五月山は登りやすいとタカをくくっていましたが、少し息切れ、トシを感じました。五月山を下つ

グループの創業者で、当時の空間が残されており見ごたえがありました。館内にある「邸宅レストラン・雅俗山荘」も美味しいという評判で、次の機会には、ここで食事をしたいと思います。

次の「茶臼山公園」は、池田市五月丘に点在する古墳時代前期の前方後円墳を地域住民により保存活動が行われた史跡公園で、ここでも遅咲きの牡丹桜が見事でした。

目的地のいくつかを省いたにもかかわらず、日頃は歩く機会も少ないので、結構な距離を歩いたように感じました。このような機会でないとハイキングに行くこともないのですが、いい運動になり、とても楽しい時間を過ごせました。

（記・広畠 直子）

て池田城跡公園に行きました。人工的な匂いはあるものの、美しく造られた庭園では、たまたまバンド演奏が行われていました。この日は風もなくとてもいい気候で、心地よい庭園で昼食をとりました。

次には、「逸翁美術館」「池田文庫」を横目で見ながら「小林一三記念館」へ向かいました。

小林一三氏は、日本を代表する実業家。阪急電鉄や宝塚歌劇団をはじめとする現・阪急阪神東宝



小林一三記念館



池田城跡公園



五月山

新理事のプロフィール

①氏名②勤務先名③本人からの一言



①矢野由佳子
②株式会社建設技術コンサルタント
③勤務先では主にポンプ場・浄化センター等の設計補助をしています。
家具・インテリア等に関わることは少ない仕事ですが、これからいろいろな知識を身につけていかなければならぬと思っています。

たくさんの方とのつながりを大切にしたいです。

「遊ぶ」「食べる」「飲む」全部大好きなので、たくさんの行事に参加していくかと思います。よろしくお願いします。



①鷺岳(わしおか)夏希
②中央工学校OSAKA
③建築・住宅・インテリア・CGの専門学校で職員をしています。実務経験がまだ浅いので、学生と一緒に毎日が勉強です。好きなことは、喋ること・笑うこと・飲むこと！ 休みには建築物を見に行ったり、おいしいものを食べに行ったり。最近では、タヒチアンダンス、スノーボード、サーフィンを趣味にすべく練習中です。
まだまだ未熟者ですが、よろしくお願いします。



久々の「かぶだちの会」 酒蔵見学と食事会を満喫

「かぶだちの会」が主催する催しは、一昨年の、千里阪急ホテル・プールサイドでのビアパーティー以来、久々の開催であった。

開催が遠のいた理由の一つに、同会の会長である筒井さんが体調を崩されていることがあるが、言い訳に過ぎず、誰かがフォローして企画すべきだと思っている矢



先に、小長谷さんから提案があり、2月22日に清酒・白鹿でお馴染みの「辰馬本家酒造㈱」の見学を行った。

小長谷さんの義兄が、同社の元監査役という要職に就いておられ、その日も同行していただいた関係で、懇切丁寧なもてなしを受けた。過去10回以上の酒蔵見学を経験しているが、その殆どは、いわゆる地酒のメーカー。このようなオートメの工場は初めてで、驚きの連続だった。最初に映像で製造工程を見、その後工場内をくまなく案内・説明頂いたが、大きな工場内には人影はまばら、すべてといつてもよいほど機械が酒を造っているという印象だった。

その後訪れた「白鹿記念酒造博物館」では、昔ながらの酒造りの工程が、当時の用具や人体模型で展示しており、一部に、阪神・淡路大震災で壊れた酒蔵の一部がそのまま

豪快に大杯を飲み干す小長谷さんと、笑顔で見守る疋田さん
の形で保存・展示されている光景を見、胸を締め付けられた。



見学終了後はお待ちかねの食事会。午前10時半からの見学だったため「昼食」であるが、同社が営む「白鹿クラシックス」での「昼食」は、それほどの時を待たずして「宴会」と化し盛り上がった。

その盛り上がり方の一例を恥を承知で白状すると、「粕汁鍋」の土鍋の蓋の空気抜きの穴を指で塞ぎ「大杯」として酒の回し飲みをする始末であった。

稿を締めくくるに当たり、筒井さんの一日も早い回復を祈る次第である。

(記・奥田 忠彦)

新生。SJIT

復興祈願総会・仙台で

あの忌まわしい東日本大震災により開催が延期されていた仙台で、3年ぶりとなる本部・SSSの総会が5月25・26日に開かれた。

「SSSの…」と書いたが、本年度から組織・名称は「一般社団法人日本インテリア設計士協会」に、略称は英文協会名=Society of Japan Interior Technologyの頭文字をとって「SJIT」に変更されており、47期目にあたる本年度は、ある意味で1期目ともいふことができ、その記念すべき総会を被災地・仙台で開催できたことは大いに意義があると思われる。

会場は日本三景の一つ「松島」で、ホテル松島大観荘に全国から55人の会員代表者が集まった。

総会は午後4時開始で、24年度事業報告書・収支計算書は原案ど

おり承認され、役員改選では、疋田会長(OIS顧問)の再任が決定、以下、OISに関係ある役員人事は、宮後副会長(OIS顧問)が退任、奥田専務理事(OIS事務局長)、植田顧問待遇常任理事(OIS顧問)、今西理事(OIS常任理事)は再任、梅田OIS会長は監事から常任理事に異動が決定した。

これにより疋田体制は3期目(5・6年目)に入り、より充実した協会運営が期待される。

引き続き行われた25年度事業計画案・予算案も原案どおり決定を見、来年度総会は「高知県」で行われることが報告され終了した。

OIKOS(インテリア環境評価協議会)関係のアンケート、記念撮影のあと交流会が行われ、被災地の復興を祈念する「復興の獅子舞」が大音響の和太鼓と笛の音をバックに披露された。

翌日の観光は260以上もの島が浮かぶ松島湾クルージング、国宝「瑞巖寺」、国の重要文化財「五大堂」などの見学を行ったあと昼食を済ませ解散となつたが、空路帰路につくメンバーは被災地「名取市・閑上(ゆりあげ)」に立ち寄り、標高8メートルほどの日和山・富士姫神社跡地に設けられた復興祈願所で被災者に手を合わせ献花を行つた。

(記・奥田 忠彦)

日本インテリア設計士協会第47期通常総会 懇親会



閑上・日和山の復興祈願会場